

小中学校の適正な規模等に関する意見交換会 議事録

1 開催日時

令和7年10月7日（火）午後6時30分～午後8時20分

2 開催場所

押沢台小学校 体育館

3 参加者数 30名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
	学校教育課	課長	前原 敦
〃	〃	主幹	梶田 傑
〃	〃	指導主事	湯浅 公
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

4 議題

石尾台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

5 会議資料

小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について（押沢台小学校）

午後 6 時 30 分 開会

1 開会

教育部長あいさつ

2 議題

- (1) 石尾台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

【事務局】

<本市の基本的な考え方とこれまでの取組について>

- ・児童生徒数は全国的な少子化の進展に伴い減少を続けており、本市においても、同様に減少していくと推定される。子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進める必要がある。
- ・学校規模の区分について、本市では今年 2 月に「小学校・中学校の適正規模の基本的な考え方」を策定し、その中で、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から学校規模の区分を設けた。
- ・クラス替えが可能であれば、児童生徒同士の間関係に配慮した学級編成ができることや、集団の中で社会性を身に付けたりできるなど、子どもたちにとって多くのメリットがあることから、本市では、小学校、中学校ともに 1 学年に 2 学級以上あることが必要であると考えている。
- ・どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、適正規模の確保に努めるように検討することとしており、「坂下」「藤山台」「高森台」「石尾台」「岩成台」の 5 つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、令和 7 年 4 月から 5 月にかけて、対象校区の小中学校 17 校の P T A 役員の皆様への説明と意見交換を実施した。その後 5 月から 6 月にかけて児童生徒やその保護者の皆様に、6 月から 7 月にかけて、地域にお住まいの方を対象にアンケートを実施した。

<児童生徒数推計について>（資料 1 ページ）

- ・昭和 58 年度から令和 13 年度までの、押沢台小学校の児童数の推移は、昭和 60 年度の 562 人をピークに、令和 13 年度では 73.3%減少の 150 人と推計される。

- ・押沢台小学校は、今年度、児童数 187 人、8 学級で、学校規模は、クラス替えができない学年がある「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 13 年度から、全学年でクラス替えができない「過小規模」になると推定される。
- ・石尾台中学校は、今年度、生徒数 337 人、10 学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。今後は、生徒数、学級数はともに減少し、令和 18 年度から「小規模」になると推定されるが、令和 22 年度には「やや小規模」と推定される。
- ・玉川小学校は、今年度、児童数 195 人、8 学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 9 年度から「過小規模」になると推定される。
- ・石尾台小学校は、今年度、児童数 159 人、6 学級で、学校規模は「過小規模」である。今後は、児童数がさらに減少し、「過小規模」のまま推移すると推定される。

＜アンケート結果について＞（資料 2～5 ページ）

- ・「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、押沢台小学校では、「賛成」の方の割合が保護者で 46.2%、地域の方で 70.0%となっている。
「反対」の方は、保護者で 25.0%、地域の方で 22.5%である。反対の理由として、保護者の方は「登下校の時間や方法」や「環境変化による子どもへの影響」を心配する方が多く、地域の方も「環境変化による子どもたちへの影響」を多くの方が心配している。押沢台小学校に、玉川小学校と石尾台小学校を加えた、石尾台中学校区の小学校「全体」の結果と比較すると、押沢台小の保護者は、「賛成」の割合が低く、「反対」の割合が高い結果であった。
- ・先ほどの質問に対して「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、押沢台小学校、全体ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。賛成の理由として、保護者の方は「子どもの人間関係に良い影響を与えるから」と考える方が多く、地域の方は「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れるようになるから」と多くの方が考えている。
- ・学級数については、保護者の方、児童生徒ともに 1 学年に複数学級が望ましいと考えている方が多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えている。

小学生の保護者では、「複数学級を望ましいと考えている人」は 90.9%、小学生では、「複数学級が望ましいと考えている児童」は 60.4%となっている。その中で、

押沢台小学校を個別に見ると、複数学級を望ましいと考えている保護者の方は 89.4%、児童では 61.6%となっている。

- ・「学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「運動会などの行事でクラスに活気があること」や「クラスが変わって、新しい友達がたくさんできること」、また「みんなで相談しながらいっしょに勉強ができること」が大事だと考えている。中学生では「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」を 51.7%の生徒が選んでいるが、同様の項目を選んだ小学生は、石尾台中学校区の小学生全体では 28.9%、押沢台小学校では 27.2%と、中学生と比較し、低い比率となっている。

「クラスが変わって」をイメージしにくいからか、今回のアンケート対象の 17 校の中でも、過小規模校や小規模校では同様の傾向が見られた。

地域の方は、「子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」や「子どもたちの登下校」が重要と考えている。

- ・「魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は、「子どもの人間関係に広がりがあること」や「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」が重要と考えている。

地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」をととても多くの方が重要と考えている。

- ・「学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については、安全性や時間が重要と考えている。

<本市の考え方について>（資料 6 ページ）

- ・「児童生徒数推計」から、石尾台中学校は、「小規模」又は「やや小規模」で推移すると推定される。また、令和 13 年度では、中学校区内の全ての小学校が、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であると推定され、令和 22 年度では、児童数がさらに減少すると推計される。
- ・「アンケート結果」からは、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。保護者は、子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、行事でクラスに活気があることやクラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。一方で、学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。
- ・「地域の特性」として、ニュータウン地区内で、石尾台中学校区は高森台中学校区と接しており、石尾台中学校は、直線距離で高森台中学校から約 1.1 km の距離に位置している。また、中学校区全体の北部から南部にかけて傾斜がある地形で、登下校の手段に配慮する必要がある。

- ・「児童生徒数推計」「アンケート結果」「地域の特性」を踏まえ、本市としては、石尾台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めていきたいと考えている。

また、検討にあたっては、次のことに留意をする。

- 1 石尾台中学校については、「小規模」又は「やや小規模」で推移すると推定されることから、その推移を見守ることとする。
- 2 小学校については、各小学校の児童数推計から、児童数の減少が今後も続くと推計されることから、隣接する中学校区と合わせた検討も視野に入れる必要がある。
- 3 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用など通学手段についても検討する。

3 意見交換

【質問 1】

将来の児童数の推計値について、押沢台小は他の学校と比べてそれほど減っていない。その要因をどう考えているか。

【事務局】

その要因については分析できていません。

小学校の令和 13 年の推計値は、現在の 0 歳から 5 歳までの人口に社会増減を加味した値であり、実数に近いものとなっています。

【質問 2】

令和 22 年度の推計値は妥当なのか難しいと思うが、藤山台小は統合して 10 年経ち、また検討の対象校になっている。今回の検討において、令和 22 年度の推計値をどう考えているのか。

【事務局】

令和 22 年度の推計値は、市が将来の人口動向を推計した「人口ビジョン」から推計した数値となっています。国勢調査の数値をベースに、過去の転入転出率、生存率、出生率などを加味して推計しています。

この数字を示したのは、学校の適正規模を考えるにあたって、令和 13 年度よりももっと先の未来をみて、子どもの数や学校規模がどうなるかを皆さまと考えるためにお示ししました。

藤山台小の統合の際も同じように人口推計を参考にしましたが、推計以上に児童生徒数の減少が早く、今回の検討の対象となっております。

令和22年度の推計値では、石尾台中学校区の3つの小学校をあわせたとしても、1クラスになる学年があると推定されることから、隣接する中学校区もあわせた検討も視野に入れる必要があると考えています。

【意見3】

押沢台小学校を全学年2クラスにすればよい。そうすれば押沢台小学校は廃止としない。今の学区制をやめて、学校を選択できるようにしてほしい。学校の先生が合わないという子はどんどん転校すればよい。不登校になるのを防ぐには簡単に転校できるようにすることも良いと思う。

学校選択制となれば、学校間の競争になる。学校評価を実施して、保護者や子どもたちが学校を評価し、結果をホームページに掲載する。人気のある学校は児童数が増える。各学校の特色をもって、人を集めればよいと思う。私立小学校、中学校の授業料が無償になったら、ここの学校は選ばれるのか。そんな時代ではない。

夢と希望がある学校制度をつくる、数値だけを見て対応するだけでは、魅力がない。

【事務局】

貴重なご意見としてうかがわせていただきます。学校区の見直しは慎重に検討する必要があると考えています。

【質問4】

教育環境として、1学年に複数クラスが必要なことは理解できるが、1学級35人というのは適切なのか。1学級の児童数を少なくするなど、その時代に応じた適切な教育をすることについての考えを聞きたい。

【事務局】

教員の配置については、国の基準に基づき、愛知県が定めた35人学級の基準をもって配置されています。本市の現状の財政面から考えると、独自に市の予算で教員を配置しクラス数を増やすことは困難ですが、補助する教員を充てるなど複数で指導できる体制をとっています。

子どもたちにとってより良い教育環境を実現することが、市の基本的な考えになるので、皆さまから意見をいただいて検討を進めたいと考えています。

【質問5】

7年くらい前に、学校の統合をするという話を聞いた。それから、なかなか話が進まないのはなぜか。アンケートで賛成の方が多いのに、改善されていないのはなぜか。また、一般的に統合の話はどれくらいの期間が必要になるのか。

【事務局】

過去には、藤山台中学校区で小学校3校の統合をしましたが、石尾台中学校区で市が具体的な検討を進めていたことはありません。

今後のスケジュールについては、今回の意見交換会を踏まえ、2回目の意見交換会の開催を予定しています。その後は、地域や保護者の代表者、学校関係者などで構成される協議会のようなものをつくって、具体的な検討を進めたいと考えています。

スケジュールについては、学校施設について、既存の学校を使う場合、リニューアルする場合、新しい学校をつくる場合によっても変わってきます。大規模な改修工事や新築をするとすると、設計の期間と工事の期間を合わせ、5年程度の期間が必要となると考えています。市としては、適正規模の課題を解決するために、スピード感をもって取り組みたいと考えています。

【質問6】

統合して、クラス替えができるようになるのは良いと思うが、一方で通学距離が長くなることや、1クラスの人数が増えることも不安に感じる。藤山台小学校で3校統合した後の保護者の意見はどうだったか。

【事務局】

藤山台小学校の統合後の意見では、良かった点について、新しく充実した施設で学べることや、クラス替えができるようになり多くの友達とコミュニケーションができるようになったなどの意見がありました。

また、課題としては、統合で校区が広がり通学距離が長くなったことや、2段階の統合に対し一度に統合した方がよかったなどの意見がありました。

【質問7】

隣接する中学校区とあわせて検討する可能性もあるということだが、石尾台中学校区で協議会をつくった場合、他の中学校区と合わせた検討を行うのが難しいのではないか。

【事務局】

地域のつながりなどを考えて、まずは各中学校区で協議会を立ち上げる予定です。中学校区を越えた検討をする場合は、協議会を合同で開催することも考えています。

【質問8】

今後の方針について、小学校3校の統合は想定できるが、中学校はどうなるのか。

【事務局】

地域的なつながり考えて、まずは中学校区単位で検討していきます。具体的な検討を進めていくにあたって、皆さまと協議しながら詳細を決めていきたいと考えています。

【意見 9】

地区の住民がほとんど戸建てであることなど、同じような家庭環境や生活水準の方たちと同一の学校を望む人もいると思う。余計なトラブルを避けるためにも、参考にしてほしい。

【事務局】

貴重なご意見として、今後の検討の参考にさせていただきます。

【質問 10】

小学校は地域の住民活動、災害時の避難所として使用するなど地域の拠点である。統合になると施設の利活用についての問題もでてくるが、学校施設、跡地などの活用方針を教えてほしい。

【事務局】

仮に統合した場合、跡地の活用については、現在、体育館が避難所や投票所として使われていることなども考慮し、市全体で別に検討を進めていきたいと考えています。

まずは、子どもたちのために、より良い学校づくりを考えていきます。

【質問 11】

教育関係の部署では子どものための学校づくりが優先順位かもしれないが、住民にとっては、跡地の活用も並行して考えてほしい問題である。関連する他の部署と合わせて、検討してほしい。

【事務局】

学校施設は地域に根差した施設であるため、学校の適正規模の取組と同時並行して跡地の活用などを考えることは大事なことだと思います。しかし、跡地の活用などの検討を優先するために、子どもたちの教育環境の向上について疎かになることは避けたいと考えています。

【質問 12】

今回の取組には大賛成である。様々な意見があると思うが、子どもの6年は大人とは違う。今困っている人もたくさんいる。できるだけ早く進めてほしいと思う。

ただし、これから 10 年かかる話であれば興味がなくなる。数年以内に進む可能性はあるのか。

【事務局】

皆さまの意見を聞きながら、最終的には市が判断することになりますが、地域の皆さまとの話が早くまとまり、今ある学校をそのまま使って統合する場合などは、10 年もかかりません。

【質問 13】

今後は期間や予算のことを考えながら検討することになると思うが、今日の資料には予算等について何も書かれていない。無尽蔵にお金を使えるわけではないと思うので、協議会の検討の際には、明確に示さないといけないと思う。

【事務局】

協議の前から市の予算等を示すのは難しいと考えます。協議の中で挙げた意見について、実現可能かどうかをあらためて回答していくことになると思います。

【質問 14】

今後の進め方について確認したい。

また、藤山台小学校の統合の際の概要と工事の期間を知りたい。統合により通学区域が遠くなることについて、どのような協議をしたのか。

【事務局】

本日の意見交換会の後に、中学校区単位で 2 回目の意見交換会を予定しています。中学校区内の他の学校の意見交換会での意見等を共有し、その後の協議会について話をさせていただく予定としています。

藤山台小学校の場合は、平成 22 年 4 月に「藤山台中学校区学校規模適正化地域協議会」が設置されました。その後、平成 24 年 2 月に「藤山台中学校区のよりよい教育環境の実現に向けた第 1 次小学校統合計画」、平成 25 年 2 月には「第 2 次小学校統合計画」を策定しました。また、現在の藤山台小学校の工事期間は約 3 年かかっています。

通学の問題につきましては、通学路が変わることから、保護者を交えた協議をしていましたが、距離が変わる理由で移動手段を別に用意したことはありません。

【質問 15】

バスの詳細について、有料なのか、便数は多くあるのか、乗り遅れた子はどうするのか、学年が違って、帰る時間が異なったりする場合は対応してもらえるのか。

現在、学校のイベントがあったときに保護者は車ではいけない。統合した後は大変になると思うが考えを聞きたい。

【事務局】

仮に統合することになった場合は、通学区域が広くなり、子どもの負担を考えるとバスの必要性について検討していくこととなります。具体的な検討はまだ先になりますが、バスを運用するのであれば、他市の事例も参考にしながら運営方法や便数などを検討していきたいと考えています。

また、駐車スペースについては、他の地区の保護者の方からも同じ意見をいただいています。新しい学校の検討の際に考えていきます。

【質問 16】

現在も坂を上って通学する子たちは苦勞していると思う。どのくらいでバスが使えるようになるのか。

【事務局】

バスの使用については、学校の適正な規模等を考えるにあたって検討していく事項になりますので、現状でバスの運用をすることは考えていません。

【質問 17】

対象地区が5つあって、各中学校区で取組を検討するとのことだが、5地区で小学校1つずつに統合するということか。

【事務局】

仮に統合ということになれば、一定の学校規模で教育環境を整えたいと考えています。しかし、市が一方的に決める話ではないので、皆さまと意見交換を進める中で検討を進め、最終的には市が決めることになると考えています。

【質問 18】

3校統合ではなく、2校が統合して1校が残るケースもあるのか。

【事務局】

可能性はあります。しかし、市では、子どもたちが社会性を身に付けることができるなどの環境となるように、クラス替えができる学校規模とすることを目的にしているため、規模の小さい1校が残ってしまう対応は難しいと考えています。

【質問 19】

市としての方針を提示せずに、議論して今後の方向性を決めていくと言われると教育委員会はどんな考えをもっているかわからない。

【事務局】

現在の進捗は皆さまの意見を聞きたいという段階です。皆さまからの様々な意見を聞いた上で、今後の方針を考えていきたいです。

【質問 20】

1 中学校区に 1 小学校になると想定されたが、義務教育学校をつくる考えはあるか。

【事務局】

小学校、中学校を 1 つの学校で過ごす義務教育学校は選択肢の 1 つとして考えられますが、具体的に決定はしていません。他市では義務教育学校や小中一貫校の事例がありますので、他市も参考にし、調査研究していきたいと考えています。

【質問 21】

義務教育学校にすれば、校長が 1 人になって人件費も浮くのではないか。

【事務局】

小中一貫教育には、義務教育学校と小中一貫校の 2 種類があります。義務教育学校は校長 1 人ですが、小中一貫校では校長 2 人が配置されます。それぞれの運営形態のメリット、デメリット等を踏まえて考える必要があります。

【質問 22】

義務教育学校で学ぶことで、中 1 ギャップというのがなくなることは、メリットの 1 つだと思う。

【事務局】

小学校から中学校に環境が変わることの負担が解消されるのであれば、メリットの 1 つになると考えます。

【質問 23】

他の中学校区とあわせて検討を進めていくのか。保護者の様々な意見を聞いてほしい。また、ニュータウンに人を呼び込む施策は市として進めているのか。

【事務局】

地域のつながりを考えて、基本的には、まずは中学校区ごとで検討を進めることを考えています。しかし、中学校区単独では解決できない場合は、他の中学校区とも合わせた検討を視野に入れています。

より多くの方からの意見をお聞きできるように、次回の意見交換会については、土曜日や日曜日の開催を予定しています。

また、ニュータウンの施策については、市ニュータウン創生課が中心となって取組を進めています。しかし、全国的な少子化の傾向は避けられないものであり、市としては、ニュータウンの施策と合わせて、子どもたちにとってよりよい教育環境の実現に向けた施策を同時並行して進めていきたいと考えています。

【質問 24】

押沢台小の子どもの家は定員が一杯で入れない子がいる。3校統合したときに子ども家に入れるかどうか、定員が一杯になってしまうと困ってしまう。子ども家が広く利用できるように検討してもらいたい。

【事務局】

子ども家は放課後の子どもの居場所として欠かせないものだと認識しています。統合することになった場合も、新しい学校で運営されることが望ましいと考えています。子ども家は、受入れ人数に職員配置や面積の要件があることから、市の担当部署としっかり調整したいと考えています。

【意見 25】

代表が集まる協議会だと閉鎖的な印象を受けてしまう。意見交換会だと広く公開されている印象であることから、より多くの意見を聞きながら進めてほしい。

【事務局】

今後の進め方の参考にさせていただきます。

【質問 26】

小中一貫校の話がでたときに、これから調べると発言があったが、このことについてどれだけ検討しているのか。

【事務局】

小中一貫校の整備についてはまだ決まっていないため、選択肢の一つとして考えています。情報収集は進めており、他市の事例を確認しているところです。

【意見 27】

春日井市は子育てのしやすさを推している。統合ありきではなくて、魅力ある学校をつくって人を呼び込んでほしい。

子育てや子どもたちに投資できる市になってほしい。

【事務局】

ご意見を参考にさせていただきます。

【質問 28】

春日井市としてはいつ統合するのか。どのような計画を考えているのか。

【事務局】

スケジュールの部分については、地区によって様々な考え方があると思うので、意見交換会をさせていただく中で、話がまとまった時に、速やかに進めていきたいと考えています。小中一貫校や魅力ある学校、様々な選択肢がありますが、情報提供はしっかり行っていきます。

4 今後の進め方について

【事務局】

- ・石尾台中学校区の各小中学校で開催した意見交換会でいただいたご意見などを取りまとめた上で、次は石尾台中学校区全体の単位で、年内に2回目の意見交換会を開催したいと考えている。
- ・その後、石尾台中学校区で保護者や地域の代表の方、また、学校関係者などで構成する、学校づくりを検討するための組織を立ち上げ、学校の適正規模や適正配置について、具体的な検討を行っていききたいと考えている。
- ・次回の意見交換会の日程は、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へはHome&Schoolで、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

5 閉会

午後8時20分 閉会